

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の業務の中で実践している。	来訪者や職員が日々目にする、ホームの顔でもある玄関に法人理念とホーム独自理念を掲げ、職員の意識向上にも繋げている。家族等への利用開始時には、ホームの利用者支援の基本的な考えとして話している。職員の日々の職務の中で理念にそぐはない言動が見られた場合には管理者が一对一で内容について詳しく聞き、助言をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の行事やイベントに積極的に参加したり、ホームの行事には地区の方々へ声をかけている。	自治会費を1階と2階の2軒分として納めているため、区のお知らせ等が2部配布されてくる。ホームとしても地域の一員であるという認識の上に立ち、春と秋の草取りや公民館の清掃等にも積極的に参加している。ホームのある安茂里地区の14の介護施設で立ち上げた「あかね会」主催の「オレンジカフェ」や自治会主催の「お茶飲み会」にも利用者が参加し、歌を歌ったり折り紙をしたりと楽しいひと時を過ごしている。また、今年度も中学生の職場体験学習を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は独自の取り組みはないが、今後地区の方々や他施設対象にお茶のみ場を設けたいと思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者にも参加して頂き、ホームの様子や事故報告・防災などの説明・報告をしている。	2ヶ月毎に開催し、家族、区長、民生委員、市介護保険課職員、地域包括支援センター職員、職員が参加し、近況報告から身近な介護の課題に関する幅広い内容の意見交換を重ね、双方向の話し合いを行っている。次回の開催予定については会議の終了時に伝え、ホームの行事がある月はそれと合わせ行うなど、参加者が参加しやすいようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で報告・相談し意見をもらっている。	市担当部署からは他施設や地域の現状等を聞き、ホーム運営に活かしたり情報交換を行い、共に歩む関係を築いている。介護認定の更新については家族からの依頼を受け、調査員が来訪しホームで行われている。現状、あんしん(介護)相談員の受け入れはしていないが、今後検討し利用者の支援に活かそうと考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人研修に参加し周知できている。安全な暮らしを提供出来るようケアしている。	日中、玄関の施錠はしていない。離脱傾向の利用者もいるが、職員は「外に出たい」との思いをしっかりと受け止めているので、素振りや視線を見極め気持ちの高ぶりを判断して一緒に行動し、拘束のない支援に努めている。立ち上がり動作に危険が伴う利用者には音感センサーを使用しているがあくまでも一時的な措置として安全な暮らしに繋げている。職員は法人主催の虐待や身体拘束の研修に出席し知識を深めている。	

グループホームウエルフェアあもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人研修に参加し理解している。尊厳を守るケアに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問や不明点等無いか丁寧に説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やご面会時・行事参加時等にご意見やご要望を聞いている。頂いた意見や要望はホーム全体で考えている。	1階の利用者はほとんどの方が意見や要望を表出でき、2階は半数強の方が伝えられる。表出することが難しい利用者については家族等からの話や利用後の暮らしを総合的に判断し日々のケアに反映している。開設してから3年余りであるが家族会は定着し、春まつりなどのホーム行事と共に開催し、貴重な意見等をいただきホームの運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会やリーダー会を毎月1回開催し職員の意見や提案を聞き、皆で検討している。また内容によっては緊急に開催することもある。	法人内の他の4施設を含めた全体会議には施設長も参加し、法人からの報告、他の施設の現状やマニュアルのすり合わせ等を議題に月1回開催している。人事考課制度も導入されており、年2回の面談を施設長と行い、思いや意見を伝える場として職場の円滑な運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートや自己評価表を活用し、代表者と年2回面談しやりがいが持てるよう労働環境や条件を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、動きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修や経験年数に応じた外部研修に参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	安茂里地区介護事業所ネットワーク(あかね会)に参加し、イベント・研修にて同業者と交流を持っている。		

グループホームウエルフェアあもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接をし、本人よりの聞き取りや関係者からの聞き取りをし困りごと・不安な事を明確にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム見学時や事前訪問時聞き取りをしている。また、面会時にご様子を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の情報を元に、ご本人・家族との関係性を見たり、会話や様子を確認し望んでいる支援は何か見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常作業を共に行い、経験・能力を活かし時には教えてもらったりもしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話などで連絡・相談している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人が来訪したり、馴染みの場所へ外出が出来ている。	友人の訪問を受けたり電話をかける利用者も多く、思い思いの暮らしを楽しまれている。職員は利用者一人ひとりの思いの実現のため要望や希望を聞き、その話し合いの中から糸口を探し、馴染みの店での買い物や食事、馴染みの場所への外出等に気軽に出かけている。利用者同士の関係性もホーム利用後に生まれ、お互いに居室訪問をされる利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共に生活している間柄として、声掛け合ったり作業を手伝ったり支え合っている。ベッドでの生活が主なご利用者にはお見舞いに訪室したりしている。		

グループホームウエルフェアあもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	手紙にてその後のご様子を聞いたり、行事のお知らせをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向を取り入れ暮らしやすさに努めている。困難な場合は、本人優先に又苦痛なく過ごせるようにしている。	一日の暮らし方を職員が決めるのではなく、自己決定を尊重して個々の利用者の思いを汲み取り、お手伝いに徹している。職員の担当制をとり、各職員は一名から二名の利用者受け持っている。担当する利用者と一対一で接する中で出るつぶやきや単語、素振りから思いを受け止め理解に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に情報を元に、ご本人や家族との会話の中から把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りにて、状態や気づきを職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを開催し課題とケアについて話し合い検討している。ケアプラン見直し時は家族に意向を聞いている。	モニタリングシートを使ってカンファレンスを行っている。月一回のケアカンファレンスにおいて担当職員の意見も踏まえてユニットごとの全職員で検討し、内容のまとめは各階のリーダーが行っている。利用者の状態に変化の見られた場合には随時の見直しを掛け、適切な支援に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	時系列に記録し、行動や様子を細かに記載している。朝礼で情報共有しカンファレンスで見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟に対応している。		

グループホームウエルフェアあもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域や家庭での行事に参加したり、地区の公園などに出かけ季節に触れあってもらい、メリハリのある生活を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に沿っている。協力医療機関以外の受診が必要な場合は、ご家族に代わり希望で付き添いしている。	ホーム利用開始時に本人や家族等と話し合いを行い、意向に沿って医療機関を決めている。同じ法人内の協力医による月2回の往診を受けている利用者もいる。歯科も往診対応で行っている。調剤薬局の薬剤師の訪問を受け、一人ひとりの利用者の薬の使用状況を相談後、医師の往診へと繋がる手順を踏んでいる。同じ法人からの訪問看護師を週2回のペースで受け入れ、利用者の健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体の変化見られた時は看護師に相談し、主治医の指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医の紹介状と介護情報提供書を提供している。治療経過など病院に行き聞き取りしている。病院地域連携室と連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	基本的な指針あり。契約時に説明し本人や家族の希望を聞いている。医師の指導の元、重度化・終末期のケアにチームで取り組んでいる。	法人として「看取り介護の指針」があり、第1項に「看取りに対する基本理念」を掲げ、利用開始時に家族等に説明をしている。現実に見取りなどに遭遇した場合には医師と連携をとり、本人や家族の意向を確認しながら状態に合わせ支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡の体制出来ている。日々の業務の中で学び得ている。定期的な学習会はない。今後検討したい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	連絡網・避難経路周知出来ている。年2回以上の防災訓練実施。本年度より水防訓練も取り入れる。	年2回の防災訓練には地域消防署の指導を受け避難の際の心構えや消火方法を具体的に指導していただいている。8月の運営推進会議で取り上げられた自然災害について、ホーム近くには一級河川の犀川が流れていることもあり、増水氾濫の場合には建物の構造上2階に避難することが望ましいとの意見もあり、ホーム内での災害時の行動対応について確認することができたという。緊急連絡網に区長の連絡先もあり、地域からの協力態勢も得られるようになってきている。ホーム内には元消防署職員が在籍しており、日頃から防火管理者として職員指導を細部にわたり行っている。	

グループホームウエルフェアあもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	さん付けでお呼びし、ご利用者個々にどう接する事が良いか考えている。	居室への訪問の際には必ずノックか声掛けでの入室を基本としている。呼びかけも氏名に「さん」付けで統一しているが、本人や家族等との話し合いの中で利用者にとって心地よいと感じられる呼び方をする場合もある。職員は人生の先輩としての尊厳と敬意を重んじながら日々のケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や思いを表出されることがほとんど無い為、こちらより声掛けし聞き取りしたり察知したりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者優先の考え方で対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容や衣服・ヘアスタイルなど自己選択して頂いている。時には意見を聞かれアドバイスをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全員ではないが、毎日調理の手伝いをして頂き、時には教えてもらっている。会話もおかずとして取り入れ楽しく食事している。誕生日には希望の食事提供している。	ほとんどの利用者は自力で食事ができ、数名の方は介助や食器の位置を変えたり、声掛けで食べることができている。職員は、ゆっくりと、時には、会話をしながら自分のペースで食べていただくように配慮していた。調理は専門職員が1階と2階で2名おり、法人の管理栄養士作成の献立表を基にその日の状況でアレンジして作り、訪問調査当日も一汁三菜の彩り良い昼食が用意された。利用者の方から「きょうのお稲荷さんは皆で詰めて作ったの、美味しい!」と話があり、日頃の食事の光景の一端を知ることができ、楽しい昼食時間となった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士のメニューを元に献立を立て、咀嚼力によって形態を変えている。好みの水分を提供し水分量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	仕上げ磨きを行い、口腔内のトラブルの確認をしている。		

グループホームウエルフェアあもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛けにてトイレ誘導できている。布パンツ可能なご利用者にはリハビリパンツから切り替えしている。	トイレでの排泄をさりげなく支援するように職員は心がけ、場所をわかりやすくしたり、居室にポータブルトイレを置き尿意を感じた時点で排泄ができるように取り組んでいる。消耗品の費用も考慮に入れた職員の配慮があり、排泄パターンを把握し声掛けや誘導を行い気持ちの良い暮らしに繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取・運動・食事の内容の検討をし、毎日働きかけている。主治医により排便コントロールしているご利用者もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望があれば午前午後いずれも入浴出来るようにしている。一人ずつゆっくり職員と会話しながら入浴している。	全介助の利用者と自立の方が数名ほどで、残りの利用者は一部介助となっている。浴室は広いスペースと換気の良い造りとなっていて、暖房設備も完備されている。浴室入口には、毎月「本日の湯」と称して看板が掲示しており、訪問月は「四季の和湯・りんどうの香」で効能書も書かれ、楽しみながら入浴をしていただくとの職員の思いが伝わるように工夫されていた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の環境整備・寝具の清潔に心掛けいつでも休める様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各ご利用者が内服している薬を職員個々に周知・確認し、効果や副作用についてカンファレンスで話合っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から、裁縫・編み物・草取り・料理等個別で役割分担している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間外出予定以外にもご利用者や天気と相談し急に出かける事もある。外出は協力的なご家族が多い。	外出時の車椅子利用者は半数以上に及び、また、シルバーカー利用の方が数名おり、全員での外出は難しく少数に分かれて出掛けている。年間外出計画もあるが、気候や天気の良い日には花見や近隣の善光寺などにドライブに出かけている。ホームの玄関前には広いスペースがあり椅子が置かれ、外気浴や気分転換に利用されている。	

グループホームウエルフェアあもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望で財布を持っている方がいる。おこずかいとして預かっているが、買い物ドライブで自由に使っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在携帯電話所持の方はいない。希望があれば電話や手紙の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔にし、作品を飾ったり季節の花を生けたりし落ち着ける空間作りをしている。	1階と2階はさわやかな若葉色とひまわりのオレンジ色で色分けされてわかりやすく造られており、その2色が共用部分のアクセントカラーとしても使われている。居間兼食堂を見渡せるキッチンコーナーは対面式で食事を作りながら会話や利用者の様子もわかり使い勝手が良い。壁にはお茶飲み会やオレンジカフェで作った折紙の作品、アニマルセラピー来訪時の写真、防災訓練の写真などが飾られ、職員の季節の飾りものも楽しい雰囲気づくりに一役買っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他者の居室を訪問したり、ソファで寛ぐ姿が時々見られる。		
	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居時、馴染の家具等配置してもらい家族写真等自由に飾り好みのインテリアにしている。	居室は1階、2階とも全室、壁紙とカーテンの色・模様が違い、個性的できれいな色合いとなっている。エアコンとクローゼット、ベットが完備され、自宅から持ち込まれた家具や写真、人形も思い思いに置かれ、居心地の良い居室となっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室やトイレが分かりやすく花や名前を貼るなどしている。毎朝水モップをかけて頂いたり、使い易いよう洗面台の物の配置をしている。		